

蔵王権現

金峯山寺に祀られている三体の蔵王権現像は、修験道の本尊です。これらの像は重要文化財で、時々一般公開されます。現在の蔵王権現像は、1590 年ごろに制作されました。

左から右に、三体の像は未来、過去、現在をあわらしており、人々を救済するために現れました。ご本尊の目を引く濃い青色は、仏教の概念である大慈悲、つまり無辺の慈しみを象徴しています。役行者が、衆生を救うために仏の出現を祈った時、蔵王権現が現れたといわれています。役行者がその姿を桜の木に彫って、本尊にしたのが金峯山寺の始まりといわれています。

三体の像は、見るものに強大なエネルギーを感じさせます。この怒りに満ちた姿は、親が子を叱るのと同じように、慈悲と寛容をあらわしています。蔵王権現を取り巻く炎は、煩悩を燃やし、悪を退け、不信心者の心にある恐れを打ちほらいます。